

平成29年度 まちづくり懇談会

豊平地区会場の要旨

平成29年10月13日（金） 19:00～20:30

豊平地区コミュニティセンター 参加者 70名

企画部長：お疲れのところ、また足元の悪いなかまちづくり懇談会にご出席いただき、大変ありがとうございます。わたくしは本日の進行を務めさせていただきます、企画部長の柿澤圭一と申します。どうぞよろしく願いいたします。それでは定刻となりましたので、豊平地区まちづくり懇談会を開始させていただきます。開会にあたりまして柳平市長より挨拶を申し上げます。

市長：改めましてこんばんは。ここのところ極端に暑かったり冷え込んだりと寒暖の差の大きな日が続いております。体調管理には十分ご注意くださいと思います。本日は大変お忙しい中、また週末になりますお疲れのところ29年度のまちづくり懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。昨年度は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これからどんなまちづくりをしていけば良いかの意見交換をさせていただきました。皆さんからのご意見も参考にさせていただきながら、只今第5次茅野市総合計画の策定を進めております。本日はその考え方等をお話させていただき、皆さんと意見交換ができればと思いますのでよろしく願いします。また後半では豊平の魅力は何なのか、またその魅力を活かして更に魅力のある地区にしていくにはどんなものがよいか、そんな地域づくりの意見交換もさせていただきたいと思います。皆様には忌憚のないご意見を出していただきまして、元気な地域づくりに一緒に取り組んでいければと思っております。お忙しい中ご出席いただきまして、改めて感謝を申し上げまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。よろしく願いします。

企画部長：続きまして、このまちづくり懇談会は、豊平地区コミュニティ運営協議会と共催で実施をしております。それでは豊平地区コミュニティ運営協議会会長、柳平公正様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

豊平地区コミュニティ運営協議会会長：みなさんこんばんは。今日お集まりいただいた皆さんは豊平のそれぞれの地区、またいろんな関わりを持って運営に携わってもらっている皆さんにお集まりいただいております。誠にありがとうございます。また本日は市長さん、市議会議員さん、市の職員さん、今日の日のためにありがとうございます。市長さんは石川県からお戻りということでお疲れのところありがとうございます。今市長さんがおっしゃられたように茅野市は第5次総合計画ということで来年度の平成30年から39年まで10年間ということでこれからの計画、それぞれの構想から実施に至る流れになるかと思っております。今回は豊平の地区内の関係の会議ということで、豊平における問題、これからの課題、またそれぞれの会議に出まして感

じたことは必ず「少子高齢化」これが重点になろうと思います。そんなことも考えながら今日の会議が有意義になるよう、よろしくお願いします。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

市長：まず1点目の「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということについての皆さんのご意見があればと思います。現在も区・自治会の組織というのは支え合い「自助共助」の取組そのものではありませんけれども、さらに意識的に進めていく必要があると思っています。普段から感じていること等忌憚のないご意見をお願いいたします。

今日は区長さんの皆さんもご出席していただいているかと思います。こういうことが問題だろうとか必ず出てくるかと思います。いろんな管理の問題であったり、子供さんがそこに集うということになると怪我をしたときの責任はどうなるのかとか、手当をしていかなければ実際には簡単にいかない部分があるかと思います。公民館は実際には活用できるかと言ったら、区長さんの立場ではどうでしょうか。

市民：今市長さんが言われたように公民館の開放ということですけど、施設ですので施錠というか鍵は当然あるわけでございます。去年までは必要のないときは年間通して閉め切りということで閉めてきましたが、今年になりまして新年より私が区長を担当するようになりましてから、去年の最終会をもって決定をし、今年の初総会を持って朝9時頃から夜6時までは開けるということで、その鍵の管理は区長がやるということで利用度の問題は別として大きな一歩を踏み出したのではないかと考えております。我が区の例でございますけど、それにそってだんだん利用度を上げていくこと、また区民の方にもそうなっていることが認知できてくるのではないかと考えております。とりとめのない意見ですがそんなふうでございます。

市長：では朝開けて夕方閉めるまでオープンで。自由にご利用くださいと。

市民：ぜひということで。必要な貴重品とかは区長管理で鍵を閉めてありますが、他は全て本当の「公民館」というものを目指して、開拓の一歩が今年踏み出たと思っております。

市長：素晴らしいですね。やってみて課題とか良かったこととか、ぜひお話をいただければと思います。でも誰か居るといふわけではないですよ。

市民：居ないですけども、各種団体とかいろいろありますが何かあれば区長に申し出ていただければ。自己責任でやっていただくこと、何かあればすぐに区長に連絡していただくこと。区長専用の携帯電話も今年いただいて持っていますが、大変というか緊張しております。

市長：ありがとうございます。他にどうぞ。

自主防災組織の活動も本当に勢力的に取り組んでいただいている、これも感謝を申し上げるところなんですけど、ぜひ防災リーダーを。区長さんは日々のことで忙しいと思いますので、災害があったときに当然区長さんがリーダーシップをとるわけですけれども、それをサポートする意味でも複数年やってくれる防災リーダーをぜひそれぞれの区で設置をしていただければと思います。今でもそういった方が大方の区で位置づけられているかと思っておりますけれども、正直なところ充て職といえますか、そういった形ではないかと思っています。市の方も養成講座とかメニューを揃えて防災リーダーを位置づけるための支援をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。ひととおりにって、いつでも気が付いたらご発言いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

働き場の確保、産業振興、雇用の確保ということでございますけれども、「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」について何かご意見ございますか。何でも構いません。先ほど輪島の例を話しましたが、輪島と言えば漆、輪島塗。これは皆さんご存じのことだと思いますし、本当に地場産業という形で。それでも一時に比べると作る人も半分ぐらい、生産額も半分ぐらいになったと言っていました。やはりそれもそこに観光客がきて買ってもらう、良いものは残して本物を売る、そんな取組をしていました。それが上手く結びついているなど感じましたので、そういうことが恵まれすぎて今まで新しいことに目が向かなかったと、正直あるかなと思いました。棚田も良いところですね。そこに観光バスが5、6台来ていてそれを見て、市内に泊まって朝市で買って。夜のイルミネーションと朝市なら絶対泊まるしかないかなと、これは金を落とす良い仕組みを作ったなと改めて思いました。

市民：一番下の「公立諏訪東京理科大学と連携したまちづくり」、昨日信毎を見ていたらこれが特集で載っていて、今朝組合長の市長さんの顔が出ていました。興味があるのでずっと見ているのですが、優秀な学生さんが来年には来ること、競争率も上がること、非常に良いことだと思います。そんな中で茅野市、諏訪でない学生さんが来るということは、生まれたときから茅野市に住んで茅野市に染まりきった人間でない人が、茅野市にはないもの、他にはあつて良いものをもっと提言していただければいいなと思っております。これというような政策は考えてはいませんが、学生さんの意見を最大限に取り上げて、その中で一定した目標に向かって共に連携することが良いかと思っております。

市長：ありがとうございます。そんなこともありまして、今年は理科大生とのまち懇も11月に入ってからですが予定しています。どんな意見を言ってくれるか、これも10地区とのまち懇とは趣向を変えて、学生が意見を出しやすいようなワークショップ形式も取り入れてやってみたいなと思っております。

市長：3点目が「21世紀を生きる力を育む仕組みづくり」教育の問題でございます。ここで

教育長にワンコメントをいただきたいと思います。

教育長：まちづくりの一番の核になるのが「ひとづくり」だと思っています。茅野市の子供達、あらゆる面で非常に頑張っています。茅野市の教育は読書を一番の基盤にしています。非常に地味な活動ですが全国的には非常に高く評価されていまして、昨日も生涯学習部の課長さんが文科省でやったこれからの読書教育の方向の会がありまして、そこへ行って茅野市の実践の発表をしてきて全国的に注目されています。それを基盤にして「たくましく・やさしい・夢のある子ども」が育つように、今年度から小中一貫教育を本格的にスタートさせました。中身は小学校・中学校での学び方、教え方を滑らかに統一していくこと。あるいは生徒指導を共有して行っていくということで、それを特色とした小中一貫教育です。それでは小中一貫教育で具体的にどういう成果が表れたかと言ったときに、教育の問題なので具体的な数値では言い表しにくいところがあります。あと5年、10年経って成果が表れるかと思いますが、今年度見えてきているのが一つはよく言われる中1ギャップ、中学1年生で不登校になってしまうギャップがよく言われています。あれが非常に少なくなっています。また幼保小連携教育をやる中で「小学1年生に入ったときに学校に来なくなった」ということが少なくなっています。学力的にはいわゆる応用問題が小中非常に伸びている。そうした小中一貫教育の中で今年度ICT教育、英語教育に新たに力を入れてきました。平成32年度から新しい学習指導要領になるわけですが、英語の方はものすごくレベルアップします。またICT教育も本格的に始まります。そういう中で約3年先取りして準備をしています。私ですと抽象的になってしまうので、校長先生もいますので具体的にこんなふうにやっていることを少し生々しく言ってもらって忌憚のない意見を出してもらいたいと思います。

豊平小学校長：この学校へ来て3年目になりますが、非常に学校と地域が近いと感じます。運動会でも諏訪の学校を見てもお昼を保護者の方と一緒に食べる学校はないと思いますけど、ここへ来てびっくりしました。運動会の種目の中に親子で一緒にというのものもないと思いますけど、ここは学校と地域が本当に近いなと感じます。また教育長の話にICT教育と出ましたけど、今年6月に新聞等にも出ていましたけど「テレビ電話会議システム」ということで、北山小と湖東小、豊平小の3校が北部中学校へ行くのですが、その6年生の子供達が一斉にテレビに映って、そこで会議をするということをやりました。「北部中に行く前にみんなで集まって何かやりたい」とうちの生徒が思っていたのですが他の2校も同じ想いを持っていて、そこで直接話合うことで「どこかで集まって北部中に進学する前に交流したい」というような子供の願いが一致しました。これから具体的に3校が一回集まって交流を深めていきたいと思っていますが、とてもテレビ会議システムが有効だったなと、その会議は1時間だったのですが直接生の声が聞けるということは良かったです。これから交流となると実際に顔を突き合わせて話をする、名前を覚えるということが大事なので、またバスを使うと思いますがどこかの学校に集まって、このようなICT教育をやっていきたいと思います。

北部中学校長：こんばんは。小中一貫ですけど、小学校と中学校の交流を通して縦の小学校から中学校へむかう系統性と言いますか継続性を図ろうとしています。学習の仕方等を一緒に「小学校で習ったやり方で中学校も同じようにできるようにしよう」ということで、小中学校で協力してやっています。入学後学習のやり方にスムーズに入っていけるという意見があります。この小中一貫は継続性という縦の流れと、もう一つ意味があるかと思っているのが、塊としての地域の中の子供として連帯感と言いますか、仲間意識、そういうものの意味があるかと思っています。これはちょっと小中とは離れますけど、北部中学校の近くの湖東保育園の子が帰りがけに寄って親水公園という芝生で遊ぶのですが、学校の下校と重なると中学生がその子達と遊んだりして、ちょっと世話をする。ほんの短い時間ですけど子供達のまとまりというものができています。そういう地域のまとまりを子供達の中から作っていく丸いイメージと、縦に繋がるイメージと、そういうものが小中一貫の目指すところかと思えます。教育委員会とも協力しながらどんなことができるか、時間をかけながらじっくり考えている最中でございます。少しずつ成果に結び付けていきたいと思えます。

市長：ありがとうございます。校長先生、教育長のお話も含めましてご発言ありましたらどうぞ。気軽に発言してください。

この英語教育なんですけど、台湾から女性の先生を招へいしまして、英語教育は小学5・6年生を対象にしています。日本名秋先生と言いますけど、ぜひ時間がありましたら小学校にいつ来るか聞いて覗いてもらいたいです。英語の教え方はこういうことかと目から鱗で感じます。あれを見ると自分達が中学・高校でやってきた英語教育は何だったのかと、あの膨大な時間を費やして今どれだけしゃべれる？と寂しい気持ちになります。本当に「習うより慣れろ」じゃないですけど、「百聞は一見に如かず」で時間があれば聞いて、その時間覗いてもらえたら納得するかと思います。

教育長：今の英語教育ですが、4月から台湾のあき先生が見えられていますがまだわずか10か月で、4月のときは私が授業を見に行ったときは何やっているか分かったのですが、今は全くついていけないです。秋先生がベラベラと英語でしゃべっていて、それに対して子供達がどんどん答えていく。私は何をやっているか分からないですが、力がついていると思えますのでぜひ見に行ってください。これからの学習指導要領で平成32年から英語教育が完全実施となるわけですけど、要求されていることがものすごく高いレベルで、小学校5・6年生で約700語の単語、そして中学校に行ったら基本的に英語の時間は英語だけで授業する。そうしたときに何もしないで平成32年度を迎えてそこでスタートしたら一番困って悩んでしまうのは逆に英語嫌いになってしまうこと。そこで茅野市では3年間先取りして今年から準備をしている。秋先生が来る中で子供達が英語を好きになって力がついて、先生達の英語力もつくという点がありますので、ぜひ秋先生が来る日に見に行ってください。

市長：ぜひ、良いものを見たなと思うと思います。他にご発言ございますか。

では次の「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」ということで、インフラであったり箱物であったりしっかりとした基盤づくりをしていかなければいけません。なかなか豪勢なものという時代ではなくあるものを上手く使って、尚且つ安全・安心・豊かに暮らしていける基盤づくりに取り組んでいきたいと思います。ご発言ございましたらどうぞ。

市民：豊平は周りの湖東も北山もそうなんです、集中して道路が扇型になっていますので、冬になって雪が降ると国道299号がつかまってどうしようもないと。企業や新しい家がどんどん上に来た場合でも相当困る状況を起こしかねないと思います。山浦方面の人が国道へ直に行く道があれば違うだろうし、通勤バイパスが鬼場ぐらいまで延びていれば非常に都合が良いかと。勝手な想いなんですけどお願いします。

市長：勝手ではなく切実な想いだと思います。通勤バイパスで言うと、私も市長になって鬼場ぐらいまでもってこられないかと検討もしたことがありますけど、一つのネックがJR。あそこをどう潜るかということがネックになりました。そして基本的に通勤バイパスの構造は安全対策上は認められない構造なんですよね。河川敷に下りてまた上がっていくという、外に下りる分には良いだろうけど。堤防を使う道路にはあるのですが、河川敷に下りるのは本当はいけない。ただ諏訪側が良いのは、水かさはありますけど基本的に急流ではないので水はあんまり上がらない。ただ木落としの辺りから上は流れが速くなるものですから、水が出るとあっという間に道がなくなる。その繰り返しになってしまうということで基本的に無理だという物理的なものがあります。また鬼場の改修の中で、茅野市においても構想道路ということで永明寺山の下をトンネルで掘ってインターの出口、インター出てまっすぐ行くと20号にぶつかりますよね。あれをまっすぐ延ばして永明寺山の下をくぐるとちょうど米沢に出るので、それをグリーンラインと結んで諏訪の方に行く、というような構想道路ですけど。そんな計画もありますが、なかなかそう簡単には行かないということで。想いはありますが、正直形にするには高いハードルがあるなというのが現状です。ただ信号の調整とか可能な限りはやっているといます。栗沢橋も付け替えをして、右折レーンをしっかり取ってということが必要になると思いますし。まだまだ道に関してはたくさんございます。

市民：今、災害の話が出ましたが、御作田の横にも柳川があるのですが、最近のテレビを見ておきますと災害が起きるとかなり下の方で災害が広がっているようなんですけど、上川の方もかなり小川の整備がされているのですが、御作田は全然手が付けられていないように感じられるのですが。雨が降ったときに御作田もそうなんですけど下の方も災害に合わないように、河川整備について茅野市の構想があれば教えてください。

市長：河川改修ということになるかと思えます。柳川は1級河川になりますので基本的には県の整備になるかと思えます。昭和34・35年に荒れて改修ができて、それ以降特別大きなものも無かったらうけど、河床も木が生い茂ってだいぶ流下能力は落ちているのではと思えます。それは県も承知しておりまして、木を切ったりとかはしてくれていますけれども、河川改修となると根本的に手を入れないと槻木の方までいかないかと思えます。県も重々承知しているかと思えますけど、改めてしっかりと要望はしていきたいと思えます。上川の方も本町、福沢、埴原田はどうとう河川愛護の会の皆さんが手を入れてくれて、10年ぐらい前はニセアカシアの木が生い茂っていましたが本当に奇麗になって、ああいう整備をすることで水が出たときもスムーズに流れていくということ。護岸も同じ状態でも十分耐えられるようになるのかなと思っています。ありがとうございます。

それでは5番目の「あらゆる主体による協働のまちづくり」ということをございます。これも先ほどから言っていますようにコミュニティもある意味あらゆる主体によるまちづくりをしてきていると思えます。それをより意識的に取り組んでいくことが必要かということで、市民活動センター「ゆいわーく茅野」が今年の11月にオープンしました。もうすぐ丸1周年ということで記念のイベントをやるようですが、まだ一度も行ったことないという方はいらっしゃいますか。最近では会議も意識的にあそこでやったりして足を運んでもらう取り組みをしています。非常に使いやすい施設だと思います。相談を受ける職員もいますので、「こんな活動を考えているんだけど、より充実させるには何か良い方法ないか」とか何でもかまいません。ちょっと寄ってもらって課題を相談してもらおうとアドバイスをしてもらえるかと思えます。食堂もありますので、障害者の方が運営している食堂で味も良いです。また寒くなりましたが、永明小学校とテラスを手作りで作りました。ちょっとおしゃれな雰囲気もありますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。この協働の仕組みで思っていることはありますか。

ありがとうございます。ではこれから地域の魅力づくり、地域の課題と意見交換を進めてまいりますので、その中でお気づきになったこと等ありましたらそこでご発言いただいてもかまいませんので、よろしくお願ひします。ここで一旦、第5次総についてはここで区切らせていただきまして、これからは「地域の魅力とその活かし方について」意見交換をしてまいりたいと思えます。お手元に資料がございますので、それについて説明をお願いします。

豊平地区コミュニティセンター所長：「地域の魅力とその活かし方」ということで、豊平地区の魅力・資源は何だろうということで、区長会の皆さんと一緒に考えましてそこに挙げさせていただきました。まず「尖石遺跡の所在地で縄文文化・研究のメッカ」であるだろうと考えられました。市をあげて縄文プロジェクトを進めていますので、これは豊平としても進めていきたいと思ひました。続いて「地区内に博物館、考古館、諏訪東京理科大学があり、教育文化の集積地」ということで、教育の集積地ではないかと。また「豊かな地域の伝統文化（ひとぼし、どんと焼き、御柱他）」と伝統文化がきちんと守られている地域である。ただ少子高齢化が進むとその後継者という問題も大きな課題だと思ひています。また「多い別荘と観光地」がある

ということ。市内に温泉施設が6ヶ所ありますけど「縄文の湯」だけに露天風呂がある。「八ヶ岳の登山口」があること、「高原野菜の生産が盛ん」であること、「人情豊かな人柄」であること。あと「建物が支障にならない八ヶ岳がみられる」場所があるということで、塩之目のほ場に行ったときに思ったのですが、下から上を見ると電柱が1本も支障にならずに八ヶ岳が見られる。「盛んな里山活動（小泉山体験の森）」、「世界かんがい遺産 滝の湯堰」がある、「茅野名誉市民 宮坂英弐の誕生地」です。あと「福沢諭吉先祖発祥の地」ということで、福沢区には石碑もあります。また下古田には「日本の教育学者・ペスタロッチ教育研究者 長田新の誕生地」でしてこれも碑があります。また統計上どうなのか定かではありませんが「若い農業経営者による集落営農が進んでいる」ということ。「盛んな財産区活動」がされており、おかげでインフラ整備ができるということがあります。このようなことを考えて資料として出させていただきました。よろしく願いいたします。

市長：ありがとうございます。このテーマを取り入れた背景ですけど、当然茅野市の魅力をいかに発信していくかが、日本中・世界中からこの地に人を呼び込み交流人口を増やして、それが移住定住に繋がるということになるわけですが、この茅野市の魅力ということはそれぞれの地区にある魅力でして、これから今まで以上に意識をして「うちの地区にはこんな良いものがある」といった発信をしていかなければ、なかなか賑わいが出てこないだろうと感じています。先ほどの輪島にしても一つの例かなと思います。ぜひ地域をあげて「こういうお宝を磨いて発信していこう」というような取組が、地域を愛する良い取組になっていくのかなと思います。運営協議会の中でそういったものを磨きあげていけば嬉しいなと思い、テーマに選ばせていただきました。それに対して市も可能な限りの支援をしていきたいと思っています。よその地区を具体例で挙げますと、金沢地区では今年から「梅プロジェクト」が始まっています。これは金沢小学校の校章が梅の花なんですよね。何で金沢小の校章が梅の花なのかと聞くと、昔「甲州街道」が「梅街道」でいっぱい梅があったので金沢小の校章になったと聞きまして、だったらそれを復活させて10年・20年かけて金沢地区を「梅の里」にしたらどうかという、私から大きな投げかけをさせていただきまして、地域の皆さんもいろいろ検討した中でここでスタートしました。時間はかかるかと思いますが、そんな「梅の里」になって花を愛でたり、梅を収穫して何かを作ったり、そんなことになれば金沢の子供達も梅を誇りに思うかなと思います。また玉川地区では玉川小学校の前が樺並木になってまして、一昨年からあそこを歩行者天国にしまして「けやきマルシェ」、今年からは「けやきフェス」と名前を変えましたけれども、物を売ったりもします。単なる文化祭で披露するだけではなく、商売としても繋げていく取組をしています。玉川小の校章も樺だったと思います。そういうことで地域を愛する一つの取組になるかなと思います。ぜひ豊平でも「豊平と言えばこれだよ」という取組を、無理せずに、でも息を長く続けてもらえれば郷土を愛する気持ちも出てくるかと思っています。「こんなことかな」という皆さまの忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。



市民：この資料の中で2番でいうと「博物館、諏訪東京理科大学」がもろに下古田になりまして、下古田でも理科大との交流は御柱や、市としては体験の森とかがあるのですが、せっかくそこに大学があって若い人がたくさん居るのですが、大人の働きかけが少ないのかあまり交流がないなと思っています。できればそこに若い人達が居るわけですから、その方々がこの地域に魅力を感じて「また来たいな」とか「できれば住みたいな」とか思ってくれば一番良いのですが、聞く話によると遠くから学校に入学して、親御さんと住むアパートを探す、親御さんは近いところが良いと言って近いアパートを探すのですが、1・2年居ると「寂しいな」となって移り住むという話も聞いています。そんなことのないようにしていければ良いと思います。もっと理科大や博物館があるのでそこを活かしていければと思うのですが、私の家の近くで気になっているのが、理科大のバスで学生さんが通学しているのですが、歩く方も多いです。歩くのに理科大の正面のまっすぐの道から鬼場の方に向かっていくと、急に道が細くなる場所があります。そこは歩道がないんですね。市議会議員の矢島さんにもご相談させていただいていますが、私有地があったりもします。ただ茅野市の所有地もありますので、何か起こる前に歩道を作ってあげたいなという気持ちもあります。あの道を通るのは怖いと思いますので、環境を良くしてあげて住みやすくして、できればこの地域に長く居ていただければと思いますので、もうちょっと交流を深めたいと思いますので、ご協力をお願いします。

市長：ありがとうございます。旧桜並木のところですけど私達が通っていてもすれ違いに気を使うし、そこに歩行者がいれば当然どちらかが待ってという形になります。歩道の整備ということも必要になると思いますが、なかなか全て田んぼですぐにできる状況でもない部分もあるかと思っています。ただ他にもそういう要望は来ておりますので、市としても受け止めています。そういったハードの整備もしていかななくてはいけないし、先ほどの交流ということで下古田さんが一番の地元になるので、過去には御柱は聞いていますけどそれ以外で交流はあったのでしょうか。

市民：理科大の卒業生が現在理科大にいる学生、特に1年生に対して、下古田の公民館を使って自炊の学習会をボランティアで2度ほどありました。本当は男子学生を対象にしたかったらしいですが女子の学生が多くて。ただ1回やって非常に好評だったのでもう一回やると。私共が持っている交流ではないのですが、そういうところに私共が入られるかなと。

市長：そこらへんも下古田さんにも何か考えてもらえれば市も支援して。例えば災害協定みたいに「何かあったときに理科大の学生さんを下古田の皆さんが助けてやってよ」というようなことをきっかけに下古田さんと生徒の交流があっても良いかなと。本当に田舎でなくては味わえないような交流ができれば、学生にとって良い思い出になるし「茅野が良いところだ」ということにも繋がります。まずはどんなことができるか、ざっくばらんな懇談会ができれば良いですし、今度理科大生とやる「まち懇」で聞いてみたいと思います。下古田から本町のところが

学生街のような雰囲気が出せれば良いのでしょうか、本当に今の若い人達は何を望んでいるのかなと思う部分もあります。

市民：南大塩の場合、財産区となる山をたくさん持っていて、桜平駐車場も新しく2ヶ所できて非常に多くのお客様が来ます。土日にかけては100台ぐらいが入ってきますが、そこで桜平まで登るときに地域で作った観光名所の場所が2ヶ所ほどあります。昔村の人達が出て財産区の人達ができて作ったところなので今は通行止めになっています。なぜかという、ザイルを掴んで外れてしまうと危険だとか、川を渡る時には危険だとか、いろいろなことがあるわけです。できれば1600メートル以上ではありませんが、何とか市のお手伝いをいただいて見直しが出来ればと思っています。特に観光課の方からも公民館を訪ねていただいたり旅行会社のガイドが来るわけですが、どうしても村としては誰が作ったか分からないので危険であるということで閉鎖にした状況がありますので、できればそういうことも有効活用できれば良いかと。一番桜平の上まで行くとシャクナゲが群生していますので、その時期に利用していただければもう少し見込ができるかと思っています。よろしくお願いします。

市長：醤油樽とかのことでしょうか。今、醤油樽は通行止めですか。

市民：今は通行止めです。村に電話がかかってきた場合は、自分の考え方で入ってもらいたいという形で。実際歩くことはできるけれども、物に掴まったときに外れて事故が起きるとか、上に噴石があるとかいろいろな状況で、村の人は財産区の人達だけでは修復ができない現状ということで、市の方から補助金が出ていただければ具体的に進んでいくのかなと思います。

市長：ありがとうございます。ここに八ヶ岳の登山口ということでございますけど、八ヶ岳も既存の登山道以外にもいろいろあるんですよ。私もいくつか歩いてみました。結構面白いところもありますが危険だなというところも確かにあります。ここを総合的にこれからどう手を入れていくのかということになるかと思っています。県も山岳観光、山岳県・長野県ということで位置づけていますので、ここは観光課を中心にどんな対応ができるか検討してみたいと思います。

市民：先ほどの下古田の理科大との取組の中で、私は小泉山体験の森をやっています、下古田から会長が過去に出ていまして理科大生を対象に地域との繋がりということで、理科大の各部会長が取組の内容を紹介することがありました。年に1回やるのですが、説明をした1週間後ぐらいに学生さんに小泉山に登っていただくのですが、今年は6人ほどの学生が対象になりまして、関塚先生という古くから担当されている教授の方がいまして、その先生を中心に取組をやっているわけですが、6名といういかにも少ない人数ですが、オオムラサキ部会とガイドスタッフ部会というのがありまして、さらにその委員長が解説を加えまして山に登っていただ

くわけですが、大学ではそれをレポートにして学生に出させているようです。何回も言いますが人数が少ないので、取組として対象になるかは別として主催する方も趣を変えると言いますか、方法を考えれば人数が増えるのではと思っています。場所は理科大ですので下古田の取組ではないのですが、私がたまたま役員をやることになりまして、ガイドスタッフ部会で説明をすることになっていまして、少し内容を今から考えて取り組みたいと思います。

市長：ありがとうございます。関塚先生が熱心にやられていまして、開山祭のときはボランティアのサークルも参加してくれているかと思います。これは理科大の生徒は小泉山体験の森のメンバーにはなっていない？

市民：なっていないんですけど、理科大自体はいつも何人か参加してもらっています。先ほど言われたように開山祭には来ていただいています。

市長：理想を言えば年1回ではなく、小泉山体験の森のメンバーとして年間を通して関わって、その生徒が輪を広げていくことだと思います。理科大も公立化することによって地域貢献ということは位置づけていますので、一步踏み込んだ取組を何ができるか一緒に考えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。他にございませんか。

私の方からお願いになりますけど、豊平と言えば尖石があるわけですし、縄文の取組で今は小学校でも熱心に取り組んでいますけれども、もう一步踏み込んで取り組んでいただければありがたいなと思っています。縄文の遺跡としての素晴らしさも然ることながら、縄文のことを掘り下げていきますと現代を生きる私達にとって忘れてはならないものがあると思います。大ごとではなくて、世界平和にも繋がっていくと私は信じています。そのような力を世界に向けて発信していきたいなと思っていますし、地元である豊平の皆さんには今まで以上に積極的に取組をしていただければと思います。変な話、「尖石遺跡に来て縄文文化に触れたら、トランプ大統領の考え方が変わった」みたいなことになればノーベル平和賞になるのでしょうか。そんなことも想いながら取り組んでいますので、よろしくをお願いします。

市民：今日は地区の地域福祉推進連絡会の連絡会長の立場でお話させていただきます。資料9ページを出してください。地区の現在の地域福祉の部分でどんなことをお願いしているのか、どんなことやっているのかをお話させていただきながら、各行政区の皆さんにはご協力をお願いしたいという意味でお話させていただきます。現在、それぞれの区・自治会で毎年自分達の福祉行動計画を立てています。第2次の地域福祉行動計画になった時点で3年経過しているのですが、それぞれの区・自治会毎に自分達の行動計画を立てて実践をしています。内容については温度差があるのでいろんな計画があるにしても、そういった継続を基に現在進んでいる状況です。それに伴って進捗状況や困りごともあるので、福祉推進連絡会が隔月開催しているのですが、その中で年2回地区の区長会の皆さんと合同会を開いて意見交換をしています。

そのうち1回は子育て部会も入っていただいて子供の様子を、その中に民生委員さんもいますので情報交換をやっています。年度末には行動計画推進部会を開催して、全体の検証、各区・自治会毎に意見交換をして発表していただく、約80・90名ほどが参加していただいてそんなことをやっています。区・自治会における行動計画については住民の皆さんと一緒にしながら、ぜひ協力し合って進めていきたいと思っています。資料9ページの一番上「高齢者の見守り」を重点課題にして取り組んでいるわけですが、9月の地区社協だより「豊かの輪」の中で「さりげない見守り」をお願いしています。「近所」という近いところでの助け合い、近いところでの「さりげない見守り」によって、何か気付いたことがあればぜひ連絡していただきたい。連絡先はその実情に応じて区長さん、自治会長さん、民生さん、福祉推進委員、コミュニティセンター、健康サービスセンターに連絡していただきたい、という取組みをしております。実は高齢者というのが対象ではありませんけど、その地域に住んでおられる全対象、皆さんを対象にした見守りですので、何か気付いたら子供でも連絡いただきたいと思っています。現在見守りでは、豊平地区においては郵便局の配達員さん、ヤクルトさんとは直接お話しをして、業務の中で何か気付いたことがあればコミュニティセンターに連絡してもらおうということになっています。センターに連絡をいただいた場合には、直接該当する区や自治会に連絡をするというネットワークができています。まずは「気付く」ということが大事かということで、そんな活動をしています。各区・自治会の皆さんにはぜひとも協力をして活動していただきたいと思っています。よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。豊平の第2次地域福祉行動計画は各区の行動計画をもって豊平全体を位置づけているということで、非常にそれぞれの実情にあった取組かと思っています。今あった「さりげない見守り」という層が何層にもなれば確実な取組になるのかなと思っていますので、行政も支援できることはしていきたいと思っています。郵便局やヤクルトさん、あと可能性があるのは何かな。

市民：新聞配達とか、ガス・電気の検針、宅配とかいろんな層で気がついていただければ。

市長：そんな重層化に取り組んでいきたいと思っています。依田センター長、何かありますか。

東部保健福祉サービスセンター長：豊平地区の皆さんは各区の取組の中で独特な取組をされていると思います。地域福祉行動計画も今お話のあったとおり各区の積み上げが地区の行動計画になっているということで、10地区の中では特筆すべき計画かというところです。あと子供さんをしっかりと見守っていただける地域かと思っています。引き続き見守りをさせていただく中で、福祉推進委員さんの活動も活発にさせていただいていますので、引き続きお願いいたします。

市長：ありがとうございました。他にご発言ございますか。

市民：今子供さんのお話も出ていますので、豊平地区においては小学校が非常に各地区に分散しておりまして、豊平小学校・永明小学校・米沢小学校・湖東小学校というように、各小に分かれておりまして、現在豊平小学校の生徒さんは各1クラスです。そんなことで豊平が衰退というわけではありませんが子供の頃からまとまりをつけるためにも、これは何年も前から出ていると思いますけど通学区の見直し等について、教育長さんその辺の見解をお聞きしたいと思います。

教育長：子供の数の推移なんですけど、平成15年の資料だと5～14歳が390人。これからの予測でいったときに2040年には310人と若干減ります。2060年になると320人と増えてくる。予測ということもありますけど、いったん下がって横ばいという状態になります。その上で一番大事にされるのは地域の学校を守っていききたい。それぞれの学校の良さがあるかと思っています。そうした中で今おっしゃられたように通学区の見直しの問題が2012年（平成24年）に一旦出てきています。そうした中に区の方をお願いして、小学校の通学区の検討委員会を作っていただきました。その中で結論として「現状のこの方法で」と出てきています。ただ私達が考えなくてはいけないのは、それぞれの学校はきちんと大切にしておいて残していく。ただ例えば「米沢小学校の子が2人だけになった」というときに、子供達の成長の上でそれが本当に良いのかという点からは考えなくてはいけない。ただ何れにしても通学区の問題は大切なことであり、地域のまとまりからも大切なことで、通学区の見直しの問題になったときは地域の方と地区の方ととことん話合っ、一番良い方法を探していきたいと考えております。

市長：確かにこの問題はいろいろと簡単にはいかない部分があるかと思っています。簡単に考えれば地域のみんなが一つになってもらえれば簡単なんだろうけど、歴史の中でもいろいろあった部分もあるかと思っています。ただ、もう何人か来れば2クラスになるという学年も多いんですよ。

校長：そうですね。今の2年生が35人なんですけど、県の施策で36人になると2クラスになります。来年の1年生も35人です。豊平小はだいたいそのへんで推移しています。湖東小学校さんと本校とは10人ぐらいしか変わらないのですが湖東小学校はだいたい2クラス、一学年だけが1クラスです。ですので各ご家庭でお子さんを3人、4人とつくっていただいて入っていただければ豊平は2クラス希望で維持できるかと思っています。さっきもお話しましたが、学校が地域の方に支えられていまして、田んぼもいつの間にか誰かが草刈りをしてくださっていたり、そんな地域にある学校の良さだと思います。最近上の方に新しい住宅も出来ていますので、そんなところで若い方が来ていただければ小学校が2クラスに復活するのではないかと思います。

市長：子供がいるということで活力があったり、何かやるときにダイナミックにできるという

ことがありますけど、35人で1クラスと36人になって18人ずつで2クラスだと、先生も子供もすごい違いですね。これが10人足りないとかだと諦めるけど、1人か2人で1クラスか2クラスというのは大きいなと思います。そういう状況だということは頭に入れておいて、家を建てるという人がいたら「豊平に家を建てるの良いよ」と言ってもらったりするのも一つの方法かと思います。そんな状況です。

地域の魅力づくりに勝ることながら地域で普段に思っている課題等ございましたら、それも含みましてご発言いただければと思います。

ございませんか。ありがとうございます。無理に引っ張り出すこともないかと思います。ちょうどお時間となり、ありがとうございます。確かに人口減少、少子高齢化ではございますけれども、かと言ってこの地域に活力がなくなることはないと思います。今まで以上に知恵を出す、そんな時代が来るのかなと思いますのでそれぞれの区・自治会において、また豊平地区として共に「やさしい活力のあるまちづくり」に取り組んでまいりたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。今日はお忙しい中ありがとうございました。

企画部長：本日はありがとうございます。貴重なご意見やご提言につきましては、まちづくりに活かさせていただきたいと思いますので、よろしく願いします。